

町家ペンキ塗り替えボランティア活動 1994年および1995年 in HAKODATE



before



after



■ 1994年8月20日（土）、21日（日） ■

←左

(3) 洪田家住宅：1909(明治42)年、弥生町8-16

【塗り替えの配色】外壁下見板：黄色、窓枠：白色、柱等：こげ茶色の3色

●塗り替え対象物件の選定理由：ペンキ塗り替えの効果が最大限に発揮されるように、洋風下見板張り建物が連続して並んでいる通りを最優先に選んだ。この洪田家住宅の向かって右隣には景観形成指定建築物の岩崎家住宅店舗、さらに隣には高田木材店の3棟の洋風下見板張り建物が軒を接している。こういうところは西部地区でもほとんど見られなくなってしまった。また、ペンキ塗り参加者数があまり見込まれなかったため、塗装面積の大きくない、こじんまりとした建物を、というのも選定理由の一つである。なお、これは昨年度からスタートした団館からトラストの初めての助成事業の一つとして選ばれた、記念すべきものである。

●塗り替える色の方針：①西部地区の町並み景観との調和、建物の周囲の環境や建物自体の建築様式との調和、②外壁と窓枠・柱等を異なる色で塗り分け、建物にメリハリをつけること、を考慮した。外壁の色は、これまで西部地区にほとんど使われてこなかった新しいもので、かつ背景の団館山の緑に調和するものとして、黄色を選んだ。窓枠と柱は、外壁の黄色に調和する色としてそれぞれ白色、こげ茶色を選び、装飾性の高い白系の塗り分けとした。

【参加者】ペンキ塗り替え支援・札幌圏学生代表・江國智洋、大塚洋明、佐藤和時、中内知生（以上、北海道大学工学部建築工学科在学地計画学講座・大学院修士課程2年）、朝原俊一、石橋 徹、今井 宏、船越拓典（以上、北海道大学工学部建築工学科在学地計画学講座・大学院修士課程1年）、森下 誠（北海道大学工学部建築工学科住居地計画学講座・助手）、太田誠一、岡内麻子、岡 有希、山本真由（以上、元町倶楽部）、団館の友人、大塚の彼女、団館の子供達5名、以上28名

【協力者】大塚（建物所有者）、団館（居住者、昼食の差し入れ）、小坂絵美樹（足場の手配）、北海道ニッペ販売所・米沢基太（ペンキ塗料の手配）、陳有希（足場の交渉、ハケ等ペンキ用具の保管、薪トラック）、太田誠一（対象建物所有者の承諾、所有者との色の相談・決定、男子学生の宿泊場所の提供）、柳口石塚建築計画事務所（CGシミュレーション作業の協力）ハード・ソフトおよびプリンターの利用



before



after



■ 1995年8月26日（土）、27日（日） ■

→右

(4) PEACEFUL PLACE+旧三洋無線電機商会：1907(明治40)年、大町9-14)

【塗り替えの配色】外壁下見板・窓枠：淡い緑色、柱等：濃い緑色の2色

※以上敬称略